

ポーラスモデル 1 ウォールタイプ 施工資料

この資料では木下地となっていますが施工される状況に応じた下地材で施工して下さい。

製品に関するお願い

本製品は手づくりの要素が大きく、そこが魅力にもなっています。
やきもの特有の色幅や寸法誤差があります。(工業化製品ではありません。)
施工の際に製品寸法のバラツキを調整する程度の目地幅をお取り下さい。
突きつけで施工しますと寸法差が大きくなるためおすすめできません。
1mmの寸法差が10枚で10mmとなります。また、躯体の動きに追随できないため、剥離の原因になることがあります。

タイル張りについて

ボンドは弾性接着剤を推奨

1 下地の表面状態を確認・調整

- ① 浮き、き弱層、ひび割れ等はないか確認。
- ② 下地面の清掃を行う。
(下地の汚れ、埃などの付着物があると下地の接着剤との接着が悪くなり不具合につながります。)
- ③ 下地面を十分に乾燥させる
(弾性接着剤は、モルタルと異なり下地が乾燥している必要がある。下地がぬれていると接着が悪くなります。)



接着剤は丁寧に平滑に仕上げて下さい。
(製品と製品の隙間から接着剤がみえます。
事前に接着剤の色を検討しておいて下さい。)



接着剤の貼付け可能時間を考慮し、
糸をはる等、目安をつけると便利です。



製品は手で揉み込み、水平垂直を確認しながらすすめて下さい。



さらに接着剤を塗り、積み上げていくことを
繰り返して下さい。



2 タイル張り

- ① 接着剤を下地材に必要量を塗布する。
- ② 接着剤の塗布面積は、接着剤の張り付け可能時間内に張り終える面積とする。
製品は手で揉み込み、接着剤の張り付け可能時間内に張り終える。

*この製品はその特徴として開口部から接着剤の面がみえます。
圧着の程度と接着剤のはみ出し具合を評価しながら丁寧にすすめて下さい。

*一液反応硬化形の接着剤は、開封すると空気中の湿気と反応して硬化が進むため、
直ちに使用する。

*二液反応硬化形の接着剤は主剤と硬化剤が所定の割合となるように正確に計量して
混合しないと本来の性能が発揮できない。

- ③ 下地と製品との接着状況を見るため、適時、製品をはがして確認する。
(その良否の判定は製品裏面への接着剤の付着面積が70%以上、かつ、製品裏面全体に
均等に付着していることとする。)
- ④ タイル表面に接着剤が付着した場合は、硬化する前にシンナーなどの溶剤を
ウエスなどに染み込ませて拭き取る。この時、シンナーが接着剤にかからない
様に注意するとともにタイルに無理な力が入らないように注意する。

安全に関する注意

- ・製品は雨露のあたらない場所に保管して下さい。
- ・降雨時、降雪時、及び強風時など施工に支障のある場合は施工を行わないで下さい。
- ・気温が5℃以下、及び5℃以下になると予想される場合は施工を行わないで下さい。

お願い： 施工完了後のクレームは（張り替え工事費用なども）お受けできません。
施工前に製品をご確認下さい。